

日本語母語話者と日本語非母語話者のキャラクタ表出の比較

—スピーチスタイルに着目した談話分析による質的研究—

荒井 美咲(東北大学)

1. はじめに

近年の日本社会において、「キャラクタ¹」の使い分けは重要なコミュニケーション能力のひとつである。定延(2011)によると、「キャラクタ」とは「本当は意図的に変えることができるが、変わらない、変えられないことになっているもの。それが変わっていることが露見すると、見られた方も、見た方もそれが何事であるかすぐにわかり、気まずい思いをするもの」(p. 192)である。土井(2009)や千島・村上(2015)で論じられている「キャラ」と定延(2011)で論じられている「キャラクタ」は類似点が多い。「キャラクタ」は現代の日本語コミュニケーションにおいて一般化していると言われている(瀬沼, 2007; 土井, 2009; 斎藤, 2011)。しかし、日本語コミュニケーションにおける「キャラクタ」の表出の実態を明らかにした研究は少ない。

本研究は、日本語母語話者(以下NS)及び日本語非母語話者・日本語学習者(以下NNS)におけるスピーチスタイルによる「キャラクタ」の表出を談話分析によって観察して、両者を比較したものである。本研究の目的は、NS及びNNSにおけるスピーチスタイルの使い分けによる「キャラクタ」の表出を比較して相違点を明らかにすることである。コミュニケーション能力育成に重点を置いた現行の日本語教育において、「キャラクタ」を導入する必要がある。本研究によってNSによる「キャラクタ」の表出の実態把握、そしてNSとNNSの「キャラクタ」表出の違いを明らかにすることによって、NNSがNS同様の「キャラクタ」表現方法を身につけるための「キャラクタ」教育につながり、コミュニケーション能力育成のための日本語教育の発展に寄与することが期待される。

2. 本研究で扱うキャラクタについて

本研究では、先行研究(浅野, 2006; 千島・村上, 2015; 土井, 2009; 定延, 2011)による定義を受けて、「キャラクタ」を以下のように定義する。

「キャラクタ」とは、言語スタイルや非言語行動によって、本来は意図的に変えることができるが、変更・上書き・新規追加は他者からの許可がなければ認められない、または変更・上書き・新規追加が他者から認められなかった場合、人間関係構築・維持に問題が生じうる、他者依存的な役割や擬似人格のことである。

NSとNNS各6名に対して行った会場面接及び訪問面接による半構造化面接法による「キャラクタ」の形成に関するインタビューのSCAT分析²から、「キャラクタ」を生成する人物(話し手か聞き手か)、意図性、常用性、ヴァリエーション性(現実的か理想的か)によって分類した。³(表3.2参照)

¹ 本稿で扱う「キャラクタ」は、「キャラクター」や「キャラ」など表記のぶれがある。本稿では、土井(2009)が論じている「キャラ」と定延(2011)が論じている「キャラクタ」を一括して、表記を「キャラクタ」に統一する。ただし、「天然キャラ」や「いじられキャラ」など、具体的人物像や属性などを表す名詞あるいは固有名詞に後続する場合、「キャラ」と略す。

² SCAT (Steps for Coding and Theorization) とは、4つのステップでテキストにコード及び理論記述を構成する質的分析手法である。

³ SCATによる「キャラクタ」分析は、論者の卒業研究の一環として行った。

3. 分析方法

3.1 分析データの概要

本研究で分析する談話データは、NS と NNS 各 6 名に対する約 1 時間のインタビュー調査の録音データを BTSJ (宇佐美 2011a) にしたがって逐語化したデータ 12 本である。これらの 12 本の談話から、「キャラクタ」を抽出する。

表 3.1 調査協力者である NS・NNS の属性

NS	性別	年齢	NNS	性別	年齢	国籍	日本滞在歴	日本人 接触頻度	日本人 接触場面
JS01	男	49	TL01	男	61	台湾	10 年以上	ほぼ毎日	日常生活 職場
JS02	女	55	CL02	女	47	中国	8 年	週 3, 4 回	職場
JS03	男	58	AL03	男	32	オーストラ リア	5 年	ほぼ毎日	妻 日常生活 職場
JS04	女	25	PL04	女	26	フィリピン	2 年	週 3, 4 回	夫 職場
JS05	女	48	CNL05	男	43	カナダ	10 年以上	ほぼ毎日	日常生活, 職場
JS06	男	28	CHL06	女	不明	中国	10 年以上	ほぼ毎日	職場

3.2 方法

発話における「キャラクタ」表出の認定は、スピーチスタイル・シフトを基準とする。発話文番号ごとに(1)スピーチスタイル、(2)発動した「キャラクタ」の種類をそれぞれコーディングした。(1)スピーチスタイルのコーディングは宇佐美 (2011b) による文末のスピーチレベルのコーディングの記号の定義を使用した。(2)発動した「キャラクタ」の種類は、「a. 実質的キャラクタ」「b. 理想的キャラクタ」「c. 主観的キャラクタ」「d. 社会的キャラクタ」「e. 臨時的キャラクタ」「f. 印象キャラクタ」「g. 理想キャラクタ」「h. 客観的キャラクタ」で分類した。また、発動した「キャラクタ」は a~g のコーディングのほか、それぞれ「(名詞/固有名詞) キャラ」と命名して分類した。(表 3.2)

表 3.2 キャラクタの分類コードと定義

コード	キャラクタ名	定義
a	実質的キャラクタ	話し手が無意識的に生成する、話し手の人格やコミュニケーション言語能力が投影された「キャラクタ」
b	理想的キャラクタ	「キャラクタ言語」によって演出される、話し手の「自分はこうあるべき」という義務自己や、「自分はこうありたい」という理想自己を反映して、話し手が意図的に生成する「キャラクタ」
c	主観的キャラクタ	話し手が自分の「キャラクタ」を自己分析した結果、自分自身に付与した「キャラクタ」
d	社会的キャラクタ	ある場面や社会的・文化的関係において求められている、特定の場面で一時的に使用される「キャラクタ」
e	臨時的キャラクタ	ある会話中に、そのコミュニケーションが得意な「キャラクタ」を発動させるなどの効果を期待して、一時的になりきる「キャラクタ」
f	印象キャラクタ	話し手の性別、国籍や出身地、職業などの社会的属性や外見、性格、言語・非言語的特徴などから決定した仮の「話し手らしさ」
g	理想キャラクタ	聞き手が生成する、話し手に対して「話し手はこうあるべきである」「話し手はこうであってほしい」と期待して創造した「キャラクタ」
h	客観的キャラクタ	話し手が生成した「キャラクタ」と聞き手が生成した「キャラクタ」を総合的に評価することで決定される、聞き手が話し手に対して付与する確定的な「キャラクタ」

4. データ分析

4.1 NSのデータ分析

NSは、スピーチスタイルの切り替えの数がNNSと比べて多い。特に、「ツッコミキャラ」を発動するためのスピーチスタイルの切り替えが多かった。JS01のツッコミをー

例として挙げる。例えば、以下のような「ツッコミキャラ」が見られた。役割語である<老人語>(または<博士語>)(金水, 2014)を使用することで、「ツッコミキャラ」を発動させている。ただし、日常語としての自称詞「ボク」が混合しているため、「老人キャラ」は不完全に発動している。4「ツッコミキャラ」は「臨時的キャラクタ」に該当する。このように、「臨時的キャラクタ」を発動するためのスピーチスタイル・シフトが多数見られた。

NS01 普段からハキハキしてますが、仕事と結構違う【、
→JS01 】, (e) ぬしはいつもぼくの何を聞いているんじゃ [台詞めかしく]。

また、直接話法による第三者の発話引用におけるスピーチスタイル・シフトに伴う「キャラクタ」の発動が観察された。

→JS01 え?、そうなの?、でもよく(e) “だれだれさんって一ほら一なんとかじゃな [↑] ーい?、もーこまっちゃ [↑] ーう [かわいい声で] “、《少し間》とか言われてない?。

上記の例は、話者が実際に聞いた第三者の発話を、その第三者の「キャラクタ」に合わせて加工している。この発話引用方法を「キャラクタ言語」変換型と名付ける。具体的に言うと、第三者の「キャラクタ」を伝えたい、またはその「キャラクタ」を利用して笑いをとりたいために、その「キャラクタ」が使用するであろう「キャラクタ言語」を使用して第三者の発話を誇張する手法である。

→JS01 あー、《少し間》偏屈、そう、ネチネチしてるんだよね、(e) “#####でしょー [↑]、#####だからー###なんですよおー [↑] “ってかんじ<笑い>。

上記の例は、実際に第三者が発話したものではないが、その第三者の「キャラクタ」ならば言うであろう発話を、その「キャラクタ」に合ったスピーチスタイルで創出する手法である。この発話引用方法を「台詞創造型」と名付ける。

4.1 NNSのデータ分析

NNSは、スピーチスタイルが一貫している。全てのNNSが「ですます調」を基調としていた。また、日常会話で使用しているスピーチスタイルを使ってしまったことに気づき、「ですます調」に言い直す事例も観察できた。これは、「実質的キャラクタ」の発動がインタビューという学術的場面ではふさわしくないと考えたことによる、スピーチスタイル・シフトによる「社会的キャラクタ」へのシフトである。このことから、NNSがスピーチスタイルは場にに合わせて使用しなければならないと捉えていることが分かる。

→AL03 ぼくはちょっと shy だしー (うん)、あ、少し shy ですから<笑いながら>。

しかし、学術的場面において丁寧体のスピーチスタイルを使用しなければならないという「社会的キャラクタ」発動の呪縛によって、以下のような誤用が発生する事例が観察された。直接話法によるCNL05の友人の発話引用だが、友人がCNL05に「ですます調」を使っているとは思えない。CNL05の日本語能力は超級であり、このような誤用は日常会話で見られなかった。NNSは日本語レベルに関わらず、スピーチスタイルは使用場面に依存していることが分かる。

→CNL05 確かに確かに、よく“誰ですかー?”と言われます。

直接話法による第三者の発話引用において、NNSが実際に聞いたNSの発話を忠実に再現するときに、スピーチスタイル・シフトが観察できた場合もある。特に、日本滞在歴が長い超級日本語非母語話者であるTL01とCNL05は、使用する

スピーチスタイルの種類が多かった。しかし、「キャラクタ」の発動を意図したスピーチスタイル・シフトはほとんど見られなかった。

→CNL05 学生からよく言われるんです、「テストが難しいよー“とか、あー、”採点厳しいよー“とか、ですから私は厳しい先生ですみんなから見て（ふふ）。

5. 結論

本研究によって、NSはNNSより使用したスピーチスタイルも発動した「キャラクタ」も多様であることが分かった。特に、冗談を言う場合や二者間にしか理解できない限定的な会話を行う場合、NSは「臨時的キャラクタ」を発動した。一方、NNSが使用したスピーチスタイルは「ですます調」に偏っていた。NNSは日本滞在歴が長いほどスピーチスタイルの種類が増加する傾向が見られた。しかし、NNSのスピーチスタイルによる「キャラクタ」発動は日本滞在歴と関係なくほとんど行われなかった。これは、NNSがNSの持ちうるスピーチスタイルと「キャラクタ」の結びつきに関する知識とそれを運用する能力を持っていないことが原因であると考えられる。

インタビュー調査のような学術的場面において、スピーチスタイルを意図的に「ですます調」などの丁寧体にする「社会的キャラクタ」の発動がNSとNNSに共通して見られた。このことから、NSもNNSも使用場面に合わせてスピーチスタイルを使い分けて、その場に合った「キャラクタ」を選択していることが分かる。加えて、NNSはNSが行っているような対人関係の円滑化を目的としたスピーチスタイルによる「キャラクタ」の発動や使い分けを行うことは意識して出来ていない。これは、日本語教育では話しことば／書きことばやフォーマル／インフォーマルにおける区別の次元でのみスピーチスタイルの使い分けを扱っていることが原因であると考えられる。

NNSはNSとの接触によって、スピーチスタイルのレパートリーを増やし、場面に合わせて使い分けられるようになるだろう。しかし、習得したスピーチスタイルとどのような「キャラクタ」が結びついているのかが理解できないため、意図的に生成できる「キャラクタ」の種類は増えず、「キャラクタ」形成能力は向上しないだろう。今後の日本語教育において、日本語学習者の能動的な「キャラクタ」形成を支援するため、「キャラクタ」概念の導入を検討し、スピーチスタイルと「キャラクタ」の結びつきを取り扱うなど、「キャラクタ」を学習項目として組み込んだコミュニケーション能力育成教育を行う必要があるだろう。

参考文献

- 浅野智彦(2006). 検証・若者の変貌——失われた10年の後に——勁草書房
- 千島雄太・村上達也(2015). 現代青年における”キャラ”を介した友人関係の実態と友人関係満足度の関連——”キャラ”に対する考え方を中心に——青年心理学研究, 26, 129-146.
- 土井隆義(2009). キャラ化する／される子どもたち 排除型社会における新たな人間像 岩波書店
- 金水敏(2000). 役割語探求の提案 国語論究, 8, 明治書院, 311-351.
- 金水敏(編)(2014). <役割語>小辞典 研究社
- 中川明子・澤田浩子(2007). 音声コミュニケーションにみられる発話キャラクタ 定延利之・中川正之(編) シリーズ言語対照<外から見る日本語> 第1巻音声文法の対照 ころしお出版 pp. 149-168.
- 宇佐美まゆみ(2011a). 基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)2011年版 <<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj2011.pdf>> (2018年10月18日)
- 宇佐美まゆみ(2011b). 基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) を用いた研究方法(コーディングの仕方)2011年版<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/example_of_coding.pdf> (2018年10月18日)
- 定延利之(2011). 日本語社会 のぞきキャラくり:顔つき・カラダつき・ことばつき 三省堂
- 斎藤環(2011). キャラクター精神分析 マンガ・文化・日本人 筑摩書房
- 瀬沼文彰(2007). キャラ論 STUDIO CELLO
- 宿利由希子(2012). キャラクタのタイプと役割語に関する意識調査——《私たち》タイプに注目して—— 言語科学論集, 16, 85-96.

⁴ 金水(2000) や金水(2014)は、<老人語>の自称詞として「ワシ」が挙げられている。